

太平洋イカ類漁場調査 — 抄録 —

(東奥丸：イカ類漁場調査・開運丸・アカイカ漁場調査)

鈴木 史 紀・黄金崎 栄 一

発 表 誌 名

イカ釣り漁場開発資料18号(1993年5月)及び平成3年度外洋性イカ(スルメイカ・アカイカ)に関する生物測定・標識放流・海洋観測基礎資料集(1993年5月)

抄 録

1992年6月から12月に東経154度以西の太平洋海域のスルメイカ・アカイカの北上期から南下期の群を対象に試験船東奥丸、開運丸で漁場調査を実施した。

A. スルメイカ資源

1. スルメイカの漁獲動向について

1992年の八戸港での沿岸スルメイカの漁獲量は7,182トンで '91年の156%、また、CPUE(1日1隻当り漁獲量)は883kgで '91年の144%で、漁獲量・CPUEともここ10年間では最も高い水準にあった。一方、初漁日は6月29日で '91年より9日遅れの漁期入りとなった。

大畑港での漁獲量は4,568トンで '91年の280%、またCPUE(1日1隻当り漁獲量)は733kgで '91年の242%と漁獲量・CPUEともここ10年間では最も高い水準であった。

2. スルメイカの来遊資源構成について

本県太平洋沿岸並びに沖合域に來遊したスルメイカ資源は、漁期当初並びに8月の漁場調査による分布状況等から '91年同様、従来、この海域の資源を支えていた太平洋を北上した群で形成されたものと考えられる。また、今期も道東海域で漁場が形成されたが、この資源を支えたのも太平洋沖合域を北上した群であったものと考えられる。

B. アカイカ資源

1. アカイカの漁獲動向について

釣り漁場(東経170度以西)からの凍結アカイカの漁獲量(八戸港)は1,712トンで '91年の33%と低水準であった。

2. アカイカの来遊資源構成について

本県太平洋岸・沖合域におけるアカイカの漁場への来遊は加入期の7月下旬から8月上旬では本格的な来遊はみられなかった。漁場加入が本格的になったのは沿岸域では8月中旬、沖合域では半月遅れの8月下旬からと考えられる。

一方、群の性状は外套長組成から沿岸域(東経147.5度以西)では単一に発生した群で構成されていたが、沖合域のB海域(東経147.5度～152.5度間)では発生時期を異にした群で構成されていたものと考えられる。